



清正公400年遠忌記念 加藤清正と本妙寺の至宝展

④

日遙上人は、本妙寺第三代の住職。清正の一周忌に法華経全巻を写経して供え、翌年には全僧侶が協力して一夜で書写したことが頼

職。清正の一周忌に法華経全巻を写経して供え、翌年には全僧侶が協力して一夜で書写したことが頼

写会しゑの起源となったと伝えられ、明めいから清正に見込まれ、京都本願寺の日乾にあずけられた。

修行十余年の後、清正逝去（1611年）に際し本妙寺に帰山、第三世となった。火災や加藤家改易という危機を乗り越え、本妙寺存続の基礎を築いた功績はきわめて大きい。

## 基礎築いた第三世

画像は元禄14年、狩野探幽に学んだ肥後国出身の蘭井守供によって描かれたもの。狩野派正統の着実な技法による優れた肖像画となっている。（熊本日韓文化交流研究会会長 大倉隆二）

※同展は21日まで、熊本市の鶴屋百貨店東館7階ホールで。